



令和 7 年度評価及び第 5 期中長期目標期間実績 評価（案）概要版

2026年8月

大臣官房総合政策課環境研究技術室



総合評定

A

研究開発成果の最大化に向け、顕著な成果等を認定

評価のポイント

- ✓ 「研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向上」は全項目A評価。
- ✓ 研究から社会実装まで、社会的課題の解決を意識した統合的研究が進展し、国内外で注目・活用される成果を創出。
- ✓ 業務運営・財務・その他の業務運営は着実な実施を認め、B評価。

第3 1. 環境研究

- ✓ 戦略的研究プログラムを軸に、先見的・先端的基礎研究、政策対応研究、知的研究基盤整備を推進。
- ✓ 大気中メタン、PFAS、IPCC第7次評価報告書への貢献等、顕著な成果を創出。
- ✓ 外部評価でも高い評点（4.29）。

第3 2. 環境情報収集・整理・提供

- ✓ 環境展望台、動画、HP・SNS等により、研究成果・環境情報を継続的に発信。
- ✓ 制作動画が科学技術映像祭 内閣総理大臣賞を受賞。
- ✓ 国民・若い世代への分かりやすい情報発信を推進。

第3 3. 気候変動適応

- ✓ 重要度・困難度「高」の中、当初目標を上回る成果。
- ✓ 地域への技術的援助・知見提供等の貢献が顕著。
- ✓ A-PLAT・AP-PLAT等を通じ、地域・国際的な適応策を支援。

第4 業務効率化、第5 財務内容改善、第6 その他（内部統制、人事、情報セキュリティ、施設、安全衛生、環境配慮）

- ✓ 着実な業務運営を行い、所定の目標を達成しているため、B評価

主な課題・改善事項

- 研究成果を具体的な政策立案・社会実装へ一層結び付けること。
- 国民から得られるビッグデータの整理・共有、環境情報のオープンデータ化を進めること。
- 持続可能地域共創研究プログラムの外部評価が相対的に低い点、エコチル調査の追跡率低下等について原因分析・改善を図ること。
- 気候変動適応では、提供された情報が地域の適応策にどう活用されたかを検証すること。

総合評定

A

研究開発成果の最大化に向け、顕著な成果等を認定

評価のポイント

- ✓ 「研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向上」は全項目A評価。
- ✓ 研究から社会実装まで、社会的課題の解決を意識した統合的研究が進展し、国内外で注目・活用される成果を創出。
- ✓ 業務運営・財務・その他の業務運営は着実な実施を認め、B評価。

第3 1. 環境研究

- ✓ 8つの戦略的研究プログラムを設定し、分野横断・マルチスケールで研究を推進
- ✓ GOSATによる衛星観測、世界に類を見ないエコチル調査を継続し、政策・人の安全に資する成果を創出。
- ✓ 外部評価でも高い評点（中長期平均4.17）。

第3 2. 環境情報収集・整理・提供

- ✓ 環境展望台、動画、HP・SNS等により、研究成果・環境情報を継続的に発信。
- ✓ 制作動画が科学技術映像祭 内閣総理大臣賞を受賞。
- ✓ 国民・若い世代への分かりやすい情報発信を推進。

第3 3. 気候変動適応

- ✓ 重要度・困難度「高」の中、当初目標を上回る成果。
- ✓ 地域への技術的援助・知見提供等の貢献が顕著。
- ✓ 「メカニズム解明→影響評価→適応策提案・実装」の統合的研究枠組みを構築し、地域・国際対応を推進。

第4 業務効率化、第5 財務内容改善、第6 その他（内部統制、人事、情報セキュリティ、施設、安全衛生、環境配慮）

- ✓ 着実な業務運営を行い、所定の目標を達成しているため、B評価

次期に向けた 主な課題・改善事項

- 研究成果の政策提言・社会実装への接続を一層強化。
- 環境情報のオープンデータ化・国民データの活用を推進。
- エコチル調査の追跡率低下への対応、国際共同研究等への活用を検討。
- 災害環境研究プログラムと持続可能地域共創プログラムの次期中長期計画での連携強化。
- 地域レベルで活用できるデータベースの構築、公共事業にNbSを活用できる仕組みの構築等への更なる貢献